



## エルニーニョ現象についてくわしく教えて

### 赤道近くの、太平洋東部の海面の水温が高くなる

エルニーニョは、スペイン語で「神の子」のことです。南米のペルーやエクアドルの沖は、南極のほうから北上してくる寒流と、深海からわき上がってくる冷水のために、海面の水温が低くなっています。ところが、毎年12月からよく年の3月ごろまで、特に、クリスマスのころになると、海面の水温が一時的に高くなります。この現象を、土地の人はエルニーニョとよんでいます。

しかし、数年に一度、ペルーやエクアドルの沖だけでなく、赤道近くの太平洋東部にかけて、いつもの年よりも、海面の水温が、2～5ぐらいい高くなることがあります。ふつう、海面の水温は4月には低くなるのですが、6か月～1年間も下がらないときがあります。今では、数年に一度起きるこのような現象を、エルニーニョ現象とよんでいます。

### 異常気象が起きる原因の一つ

エルニーニョが起きて、太平洋東部の海面の水温が高くなると、大気の流れが大きく変わり、世界各地の気象に影響をあたえています。

1982年から83年にかけて、世界各地で異常気象が起きました。オーストラリア、インド、アフリカなどでは干ばつが起き、アメリカでは、異常な暑さになりました。日本ではつゆ（梅雨）どきがさむく、冬は暖冬になりました。

最近では、1997年の春に再び起こり、ペルーやアルゼンチンなど南米で洪水、インドネシアで干ばつ、日本ではつゆの終わりごろに、豪雨になりました。

（監修・村山 貢司）

